



亀中だより

No.22 令和3年10月1日 文責:岡田



For The Students!

9月の中頃、グラウンドを見渡した時に、以前には見たこともなかったグラウンドの中央やテニスコートに雑草が生え始めていました。当然フェンス周りなどのグラウンド周辺部はさらに雑草の勢力が拡大。学校がPTAによる愛校作業や日々の部活動で維持管理されていたことをあらためて感じています。それとともに本来なら体育祭や新人戦に向けて練習しているはずの子どもが活動していない寂しさも…。

平常授業となった27日から保体の授業で各クラスがグラウンド整備もしてくれました。ありがとうございます。そして今日から部活動も再開(テスト期間のためたったの一日でしたが…)！まだまだ制限のある学校生活ですが、第6波の声も聞かれる中で、この時間を大切にしていきたいものです。

陸上部員の思いを背に全国の舞台へ！



10月22日から愛媛県で開かれるジュニアオリンピックカップ陸上競技大会へ本校3年生林里音さんが出場することとなりました。陸上部には、中体連の最後の大会であった鈴亀地区陸上競技大会が第5波のために中止となり、失意もあったことと思います。陸上競技は個人競技と考えられる方も多いかもしれませんが、それぞれが自己記録等の目標を持ちながら、励まし合い、競い合い活動してきました。林さんには、部員みんなと高め合ってきた力、そして部員の悔しい気持ちを代表して走ってきてほしいものです。健闘を祈ります！

PTA、同窓会のご支援に感謝いたします！

コロナ禍にあって思うように活動できない時期もたくさんあったものの、学校だよりでもご紹介させていただいたように今夏の生徒会、部活動等の活躍は本当に誇らしいものです。

しかし一方でこれらの活躍を支えてくれている人たちがいることも忘れるわけにはいきません。そしてその中心といえるのが

「亀山中学校PTA」と「亀山中学校同窓会」です。全国大会、東海大会等は遠方での開催となることが多く、旅費、宿泊費も当然高額となります。中体連や亀山市からの負担もありますが、対象となるのは登録メンバーに限られています。こうした状況をいつも支えていただいているのが、PTAと同窓会です。あらためてその組織の大切さやありがたさを感じています。本当にありがとうございます。

がんばれ！中間テスト！

9月27日、28日に予定されていた中間テスト。第5波による臨時休業や分散登校、オンライン授業を考慮して10月7日、8日に延期しています。

平常授業を再開して2週間あまり。少しずつ学習のリズムも取り戻しつつありますね。学習の“ひとまとまり”の力試しとして、自分の学習の成果を試すときです。しっかりと準備して、頑張りましょう。

ちょっといり話…

先日朝から地域の男性が学校を訪ねてくれました。職員が話を聞くと、コンビニでサイドブレーキをかけ忘れて、車を離れてしまい、動き出した車を本校生徒が止めてくれた。事故になりかねないところを助けてもらい、感謝しているとのことでした。

該当生徒は、3年生糸野龍一さん、2年生奥田健太さん、佐野寿百さんです。ちょっところがあったかくなりました。ありがとうございます！

全国学力・学習状況調査の分析 その3 <各教科>

全国学力・学習状況調査の結果を3回にわたってお伝えしていますが、今回がラストになります。今回は各教科担当者(国語・数学)による分析です。本校生徒の強み、弱みが見えてきます。



< 国 語 >

本校平均と全国平均を比較すると、全国平均正答率が64.6%なのに対して本校は59%であり、ほぼすべての問題において全国正答率に及ばないという結果となった。領域別に観ると、「書くこと」及び「読むこと」について-7pt以上、全国正答率との差があった。一つの原因として、「伝統的な言語文化に関すること」について、-5pt以上全国平均正答率との差があり、文脈に即して漢字を読む力や事象や行為などを表す多様な語句について理解する力など、文章を読む上で必要となる知識の面が弱いことが考えられる。特に、文脈の中における語句の意味を理解しながら文章を読むことや場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解しなければならない問題での正答率が低かった。

一方で、「読むこと」の中でも「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」という問題の記述回答に対しては全国平均正答率が20.5%なのに対して本校では26.9%という6pt以上高い正答率となった。これは、授業の学びあいの中で、人の意見などに対して自分の意見を記述するような機会を授業中に設定してきた成果だと考えられる。

しかしながら、文章を正しく読み取り、整理していくという活動が全体的に苦手な傾向がある。その文章のなかにはどのような情報があり、どのように答えとつながっているのかを考えさせることが必要である。また、テストや授業において、本文に線や記号をつけさせ、問題を解くコツも学ばせたい。授業の中で発表者だけがその問題を理解しているということがないよう、発問への解答や考え方を全員で確認していくという授業の過程を大切にしていきたい。



< 数 学 >

本校平均と全国平均を比較すると、全国平均正答率が57.2%なのに対して本校は52%であり、すべての問題において全国正答率に及ばないという結果となった。全体の傾向として、無回答率は低い。無回答0%の問題も16問中3問であった。しかし16問中の正答数が3問以下の生徒は18%で全国と比べると2倍以上の割合となった。また16問中14問以上正解した生徒も全国と比べると半数ほどであり、高正答率の割合も多くない。平均正答率は5pt かなり低いが、正答問題数として考えると、一人あたり1問の差となる。「全員が正答数を1問増やす」ことが数値的な目標ともいえる。

領域別、観点別にみても、全体的に低い結果があり、領域、観点による差は少ない。問題別に分析すると、「円の弧の長さを求める問題」「式を使って説明する」「図形の関係を記号を使って表す」問題が、全国平均と比べ正答率の差が大きい。各領域、観点で、弱みとなるのは、『公式を覚えて使えるか』『式や記号を使って説明できるか』である。公式を一時的でなく定着させること、理解したうえで自分でできるようにすることを課題と考える。授業の中で、繰り返し練習し、自分で解く時間をしっかり持つこと、そして、学びあいの中で人に伝えることでアウトプットすること、日頃から論理的に説明することを重視しながら、学習指導に取り組んでいきたい。

